

4 授業実践において、資質・能力を育成するための「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、何が大切になるでしょうか？



各教科等を学ぶ本質的な意義の中核をなすものが、「**見方・考え方**」です。

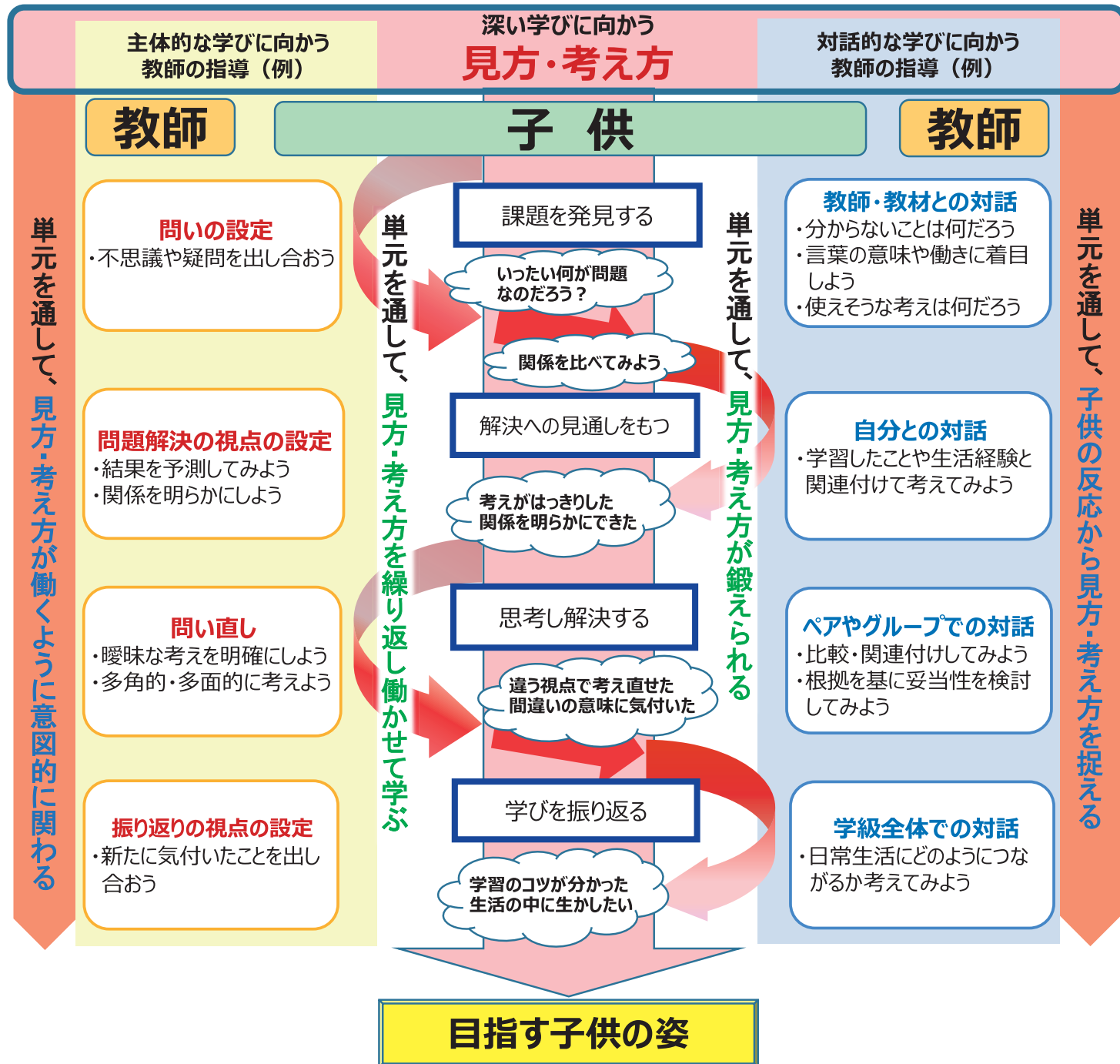
「**見方・考え方**」は、教科等の特質に応じた頭の働かせ方です。資質・能力を育成する授業を展開するために「**見方・考え方**」を子供の姿と結び付けて捉えることが重要です。

【子供の学びの現状（例）】

- ・知識が断片的で、考えが曖昧になっている。
- ・考えを発展したり統合したりするまでに至らない。

【教師が授業前に行うこと】

- ・指導する教科等の見方・考え方を理解し、**子供の見方・考え方が働くような問いや手立て**を明らかにする。



このように、自校における「育成したい資質・能力」を全職員で議論して共有し、焦点化した上で、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めていくことが大切です。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善 No. 2

1 なぜ、「主体的・対話的で深い学び」が必要なのでしょうか？



これから生きる児童生徒に必要な**資質・能力**を育む必要があるからです。

新学習指導要領では、資質・能力を**三つの柱**に整理し、これらを踏まえて**学校教育目標**を明確にすることと述べられています。

詳しくは2へ

新中学校学習指導要領解説 総則編（第1章-2）（抜粋）

1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては、学校教育全体や各教科等における指導を通して**育成を目指す資質・能力を踏まえつつ、各学校の教育目標を明確にする**…。

育成したい資質・能力を育むために、各教科等では、授業改善をどのように進めればよいのでしょうか？

詳しくは3～4へ

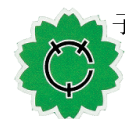
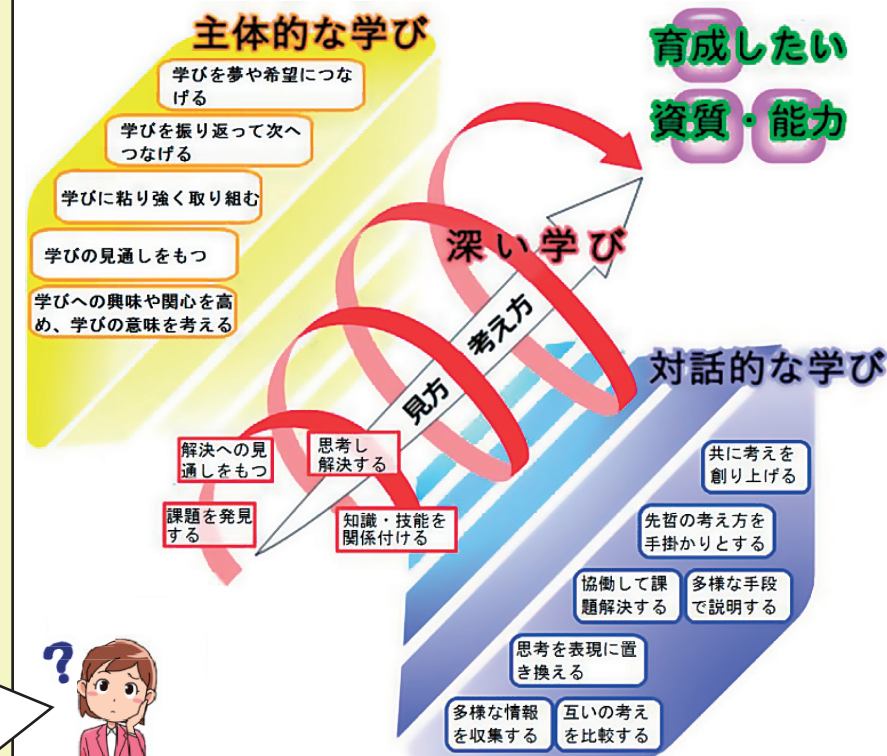
資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

「主体的・対話的で深い学び」を実現する学びの過程のイメージ



子どもの学びと未来を見つめる

長崎県教育センター

Nagasaki Prefectural Education Center

平成30年4月

2 自校の児童生徒に育成したい資質・能力をどのように設定すればよいのでしょうか？



全教職員で、
資質・能力の三つの柱を踏まえ、
学校教育目標をとらえ直した上で、
児童生徒に育成したい資質・能力を設定しましょう。

資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く
知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

明確化

① 学校教育目標のとらえ直し

資質・能力の三つの柱と関連付けながら、学校教育目標で何を重視すべきかを整理し、明らかにする。

共有化

② 育成したい資質・能力の設定

自校で育成したい資質・能力を検討し、共有化を図る。

(例) 課題をもち、主体的に学習に取り組む態度
(学びに向かう力・人間性等の涵養)

(例) 人・こと・ものと関わりながら、自分の考えを表現する力
(思考力・判断力・表現力等の育成)

(例) 課題解決に必要な情報を収集する力
(知識・技能の習得)

焦点化

③ 特に重視して育成したい資質・能力の設定

次の観点を踏まえて、②の中から、特に重視したい資質・能力の焦点化を図る。

- ・教職員が、特に課題と考えている資質・能力は・・・
- ・地域や家庭と共に、育成したい資質・能力は・・・
- ・学校の特色を表す資質・能力は・・・ など

(例) 人・こと・ものと関わりながら、自分の考えを表現する力
(思考力・判断力・表現力等の育成)

全教職員で議論しましょう！

これで、育成したい資質・能力がはっきりしました。授業改善にさっそく取り組みます！

3へ

3 焦点化した資質・能力を育むために、各教科等では、授業改善をどのように進めればよいのでしょうか？



【自校で特に重視して育成したい資質・能力】

(例) 人・こと・ものと関わりながら、自分の考えを表現する力



① 各教科等の各単元の中で、どのような子供の姿を目指すのかを明確にしましょう。

各教科等における「人・こと・ものと関わりながら、自分の考えを表現する力」が高まった子供の姿 (例)

【小学校・算数】

式の意味を、図、言葉、式を関連付けて考えて説明し、互いに自分の考えを伝え合うことができる。

【高等学校・音楽】

二通りの自分たちの演奏を比較し、どのように違うか意見を出し合うことができる。

【中学校・美術】

創造活動で、形や色彩、素材などの造形の要素の働きなどを基に、自分の作品の主題や意図について伝え合うことができる。

【特別支援学校中学部 (知的) 職業・家庭】

効率よく作業を進めるための意見を出し合い、今後の自身の役割やめあてについて考えたことを発表することができる。



② 目指す子供の姿に迫るためには、どのような授業を仕組めばよいのかを構想しましょう。

※長崎県「新 学力向上のための三つの提案」(義務教育課)を視点として、授業改善について構想した場合

○「めあて(課題)」と「まとめ」が子供に届く授業

⇒ (例) 自分の考えを表現する必要感を抱くような「問い」の準備

○ねらいに即した「書く活動」を重視する授業

⇒ (例) 自分の考えを書く前に、他者との対話などを通して、自分なりの考えや思いをもつことができるような場の設定

○「学習規律の徹底」と「支持的風土の醸成」により安心して学べる授業

⇒ (例) 互いに考えを伝え合い、認め合える環境づくり



これで、授業改善の方向性がはっきりしました。さっそく、授業を実践します！

4へ